

定住関係について

総合戦略に係る目標の実現に向けては、外部への情報発信、受け入れ体制や住みよい住環境の整備などに取り組むこととしてまいります。

これまでも、様々な形で情報発信に努めておりますが、まだまだ認知度は低いと思われることから、発信内容の精査やターゲットを絞るなど、工夫をしながら効果的な情報発信の強化に取り組んでまいります。

住環境の整備につきましては、近年、需要の高い単身用住宅を中心に整備を進めてきており、今年度も旧美田診療所跡地に6戸分の建設を予定しております。

これまでも空き家改修や住宅建設に積極的に取り組んでおりますが、今後も需要が見込まれることから、引き続き、住宅整備に努めてまいります。

また、空き家の有効活用につきましては、空き家バンクへの登録を積極的に働きかけ、充実した空き家情報を提供できるよう努めてまいります。

保健・医療・福祉関係について

(1) 保険関係について

現在、日本人の二人に一人が「がん」にかかり、三人に一人が「がん」で亡くなると言われており、本町でも死因として高い割合を占めております。

予防対策としては、早期発見・早

期治療が最も重要となりますので、検診の大切さについての啓発活動を強化し、受診率向上を図ってまいります。

(2) 子育て支援について

少子化が叫ばれる中、産み育てやすい環境を提供して行くことは重要であります。

本年度から、よりきめ細かい支援を行なうため、妊娠初期から子育て期にわたり、個別の支援プランを策定するなど、安心して子育てできるように、相談体制の充実を図ってまいります。

また、昨年から行っております「子育て支援サポーター」と利用者のマッチングにつきましても、周知を強化するとともに、活用しやすい体制づくりに取り組んでまいります。

(3) 高齢者福祉について

高齢化が進む中、住み慣れた地域で暮らして行くためには、施設の充実や地域における支援体制の構築が重要となります。

養護老人ホームみゆき荘では、今年度、1階和室を洋室に改修するなど、順次施設のバリアフリー化を図り、安全に生活できるよう進めてまいります。

また、将来的にサービス付き高齢者住宅の必要性などにつきましても、長期的な需要予測を踏まえ、検討してまいります。

地域における支援体制につきましては、介護が必要になっても、住み慣れた地域での生活が継続して行けるよう、公的サービスはもとより、地域での見守りや支援の構築に、関係機関と連携を図ってまいります。

(4) 医療関係について

医師の退職に伴い、隠岐島前病院の精神科診療は、一昨年から「県立こころの医療センター」の支援で対応してまいりましたが、この度、前任の精神科医師が復帰することとなりました。

離島で生活する我々にとって、安定的な診療体制の確保は、非常に大きな問題でありますので、中核病院である隠岐島前病院との連携強化や従事者の確保等に取り組む、より良い医療体制の構築を目指してまいります。

社会インフラ整備について

国の公共事業予算は、昨年引き続き「被災地の復旧・復興」や「国民の安全・安心の確保」などに重点をおいた基本方針とされております。

本町におきましても、防災・減災に配慮した整備をはじめ、既存施設の老朽化対応等を念頭に、島根県と連携を図りながら、精力的に進めてまいります。

(1) 道路関係について

道路関係では、県事業による西ノ

島海士線（倉ノ谷工区）や珍崎浦郷港線、国賀海岸線の改良事業が、引き続き実施され、町事業では、町道大山線の改良や通学路の安全対策、橋梁及び道路の修繕などを予定しております。

また、国立公園内の国賀浜線につきましても、安全に利用できる道路の整備が実現できるよう、県に対し整備の協力を求めてまいります。



▲国賀

(2) 港湾関係について

港湾関係では、県事業による別府港十景地区の新岸壁整備が本格化する予定となっております。

本事業では、物流機能を十景地区へ集約した後、別府地区野積み場跡地に交流拠点機能を有した施設の整備を要望しており、引き続き、実現に向けて島根県に対し働きかけてまいります。

(3) 漁港関係について

漁港関係では、県事業による浦郷漁港の耐震強化岸壁の整備が本格化するほか、町事業では珍崎漁港の老朽化施設の修繕を予定しております。

(4) 砂防・治山関係について

砂防関係では、西尾の代川、知当川の整備が継続されるほか、新たに別府地区の中別府川の事業着手が予定されております。

また、治山関係では珍崎地区の整備のほか、宇賀地区の法面崩落対策の事業着手が予定されておりますので、島根県と連携して準備を進めてまいります。

(5) 上下水道関係について

上下水道関係では、老朽化した美田浦郷間の送水管の更新及び珍崎地区配水池整備を行い、安定的な水供給に努めてまいります。

下水道関係では、下水道への接続率の向上に取り組むほか、個別処理地域における合併処理浄化槽の普及率を高めるため、引き続き事業を推進してまいります。

また、新庁舎整備に関連して、新たな上下水道の管路整備を行なうとともに、老朽化している各施設の計画的な設備更新に取り組んでまいります。

(6) 環境関係について

近年、ごみの排出量が増加傾向に

あることから、ごみの量を減らし、循環型社会形成の推進に取り組む必要があります。

今年度は、旧焼却場跡地に再生利用可能な資源ごみをストックするための施設整備を予定しておりますので、運営に向けての仕組みづくりを構築してまいります。

ごみの減量化やリサイクルの促進には、一人ひとりの意識と関心を持つていただくことが重要でありますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



▲清美苑

教育関係について

(1) 学校教育について

子ども達の学力向上を図るため、学習支援員の増員や外国語指導助手2名の配置、公営塾の開設など、学習に集中できる環境づくりに取り組

んでおります。

引き続き、学習環境の向上に取り組むとともに、Uターンに繋がる「ふるさと教育」の推進に力を入れてまいります。

小中一貫教育に関する取り組みでは、先進校の視察結果をもとに課題の整理を行っており、学校現場では学習面や生活面での連携を継続的に進めております。

視察報告によりますと、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育に取り組むことが、最も成果に繋がるとの調査結果が出ておりますので、今年度中には方向性を固めてまいります。

(2) しまっこ留学について

豊かな自然環境や地域との連携を活かした学習環境のもとで、親子での離島留学の受け入れに取り組んでおります。

昨年から町内の視察希望者が増えるなど、都市部から地方への移住に対する関心の高さが伺えます。

留学説明会やUターンフェアへの参加など、情報発信に努め、制度の浸透や受け入れ体制の充実を図ってまいります。

(3) 社会教育について

社会教育活動の拠点施設であるコミュニティ図書館が、この度、第26回しまね景観賞の「奨励賞」を受賞いたしました。

昨年の開館以来、多くの入館者で賑わいを見せており、今年度は、蔵書3万冊を目指してまいります。

今後は、館内の展示や配架に留まらず、本を届けたり情報収集を行うなど、「いかあ屋」と町民を繋げる活動にも取り組んでまいります。

(4) 結婚推進について

これまで、結婚に繋げる取り組みとしては、出会い創出イベントやセミナーの開催などを中心に行ってまいりました。

なかなか成果の見えにくい取り組みではありますが、これまでの参加者の意見を踏まえながら、ハッピーコーディネーターとの連携強化や専門業者を交えての企画立案など、結婚に対し前向きになる取り組みを進めてまいります。



▲西ノ島町コミュニティ図書館「いかあ屋」